

櫛

岡山大学附属図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

NO. 30

2000
FEBRUARY

図書館利用教育におけるライブラリアン

神 立 春 樹

岡山大学では、1998年度から「学術情報の検索と活用－図書館を利用する」、という図書館利用教育に関する授業科目を開講している。初年度は後期 Semester のみであったが、1999年度は前後期に互っている。この授業の1998年度については、中島茂樹氏の「情報リテラシー教育に対する図書館協力」（『岡山大学附属図書館報 櫛』第28号）があり、授業の概要と授業カリキュラムの要点などが記されている。カリキュラムの項には、期日、対象学生、担当教官、授業協力、教室、単位数と、各回ごとの月日、標題、区分、内容、担当の欄がある。担当教官には4名の教員の氏名が記載され、そのいずれかが各回の担当者となっている。そして授業協力は附属図書館となっている。要するに、この情報リテラシー教育が、正規の授業科目として開設されたこと、その授業は図書館が協力して行われること、というものである。

ところで、この情報リテラシー教育もそこに包摂される図書館利用教育は、すでに図書館オリエンテーションとして行われてきた。それは専門的図書館業務職員〔司書〕（以下、ライブラリアン）が担当し、図書館業務の一つとしてである。それが個々の授業の一環に組み込まれ、授業に関連づけられていたことも少なくなかった。

このように図書館利用教育はすでに行われてきているのであるが、1998年度に開設した図書館利用教育は、従来のものとは大きく異なっている。



第一に、その内容は、電子情報機器を使用しての情報検索が中心となっていることである。従来とも図書館オリエンテーションの重点は、所蔵図書資料の検索、図書雑誌論文の所在検索などの文献検索であった。しかしそれは、図書カード、冊子体情報誌によることの指導であった。もちろん電子情報機器が導入されてからは、それによることも当然ふくまれてはいる。これに対して、今回のものは情報機器を操作しての、所蔵図書資料の検索、図書資料の存在・所在状況等の検索により大きなウェイトをおいたものとなっている。情報リテラシー教育といわれる所以である。

第二に、従来のものは図書館が、図書館業務として行うのに対して、今回のものは大学が授業として実施するものである。教養、あるいは総合という区分での一般科目の正規の授業科目である。それはカリキュラムにもとづくより体系的なものとしてである。図書館はそれに対して協力するというものである。

第三は、担当者は、従来のものはライブラリアンであったが、今回はティーチング・スタッフ（教員）であり、ライブラリアンは協力者となったことである。

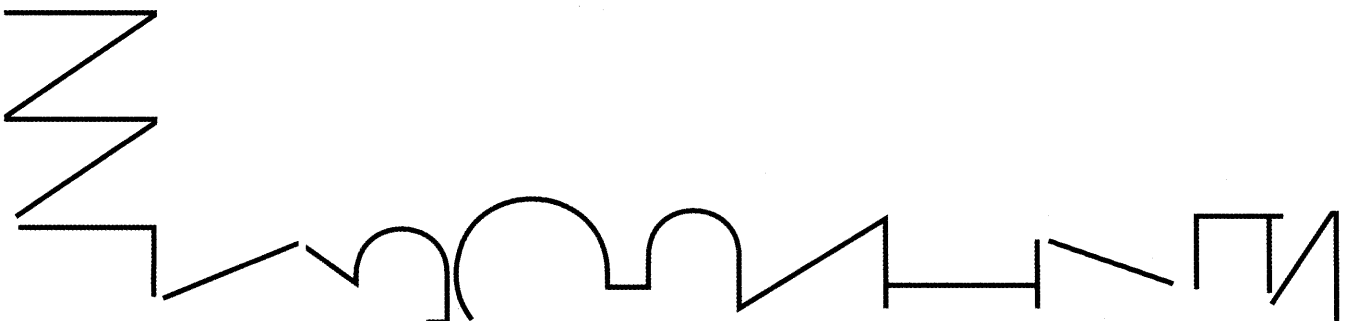
大学教育において、電子情報化時代に相応しい図書館情報リテラシー教育が不可欠となっている状況のもと、それを授業の一つとして実施することが要請されてのことである。このような要請にこたえる大学の授業においては、その適切な担当者によることが最も重要なことである。以下、1998年度の実践をふまえてこの点について考えてみたい。

ここで、改めて初年度について、その授業構成をみよう。シラバスには、授業の概要として、「高度情報社会の学習においては、さまざまな情報資源を活用しながらレポート等をまとめることは必須になっている。そこで、この授業においては、情報の読み方や学術情報等の検索を通じて情報資源の調査、情報収集の手法とレポートのまとめ方について学ぶ。図書館情報検索の演習により、多様化した情報ソースへのアクセス法の習得を図る」となっている。その実施計画を内容的にまとめてみると、①総論（講義）1回、②情報処理概論（講義）1回、③インターネット・情報検索（演習）1回、④情報利用（講義）2回、⑤情報検索と資料配置（講義）1回、⑥学術情報検索（演習）6回、⑦レポートの書き方（講義と演習）2回、⑧まとめ1回、となる。

実施上、教員が単独で担当したのは②④⑦についての5回であり、ライブラリアンが行ったのは、⑤⑥についての7回である。ほか3回は共同である。このようにすでにライブラリアン主体のものが教員担当のものよりも多い。しかも①の共同のものも教員は開講の挨拶のみであり、講義の総論はライブラリアンによって行われた。このようにみえてくると、実際はライブラリアンが単独で実施することが適切であるというものである。

ところで、情報リテラシー教育におけるライブラリアンということになると、これは二つのことが論点となるであろう。一つはライブラリアンの専門性であり、もう一つは授業担当資格の問題である。

第一の専門性ということについてみよう。ライブラリアンの専門性については利用者はおのずとそのように受けとめている。利用者として、従来、最も専門性を感じるのは、参考業務である。このレファレンスはライブラリアンにおいては不可能であり、そこに専門性が最もよく示されているであろう。つぎには、図書資料の選択・収集とそれによる蔵



書構築であろう。図書館が受け入れる図書資料全体を見渡し、適切な蔵書構築が行えるのはライブラリアンにおいてはあり得ない。ここに、参考業務とともにその専門性が発現されるといえよう。もっとも図書購入予算・図書購入権を教員がもつわが国の大学、とくに国立大学では蔵書構築におけるライブラリアンの専門性の発揮の余地は大きくない。

この参考業務と図書資料の選択・収集と蔵書構築以外にも、受け入れた図書資料の分類・整理、図書資料の貸出などの運用などもライブラリアンの専門性があるからこそ、その業務が遂行できるのであり、ライブラリアンはいずれもその専門性において独自の役割を果し得るのである。

従来の図書館においてもライブラリアンの専門性はこのようにその基本的属性であると思なされたであろうが、電子情報機器による図書館運用の時代になって、専門性における新たな側面が課題となってきたといえる。それはライブラリアンが電子情報機器を駆使することが不可欠となり、日常業務においてこの電子情報機器を駆使し得るといふことそれ自体である。

この電子情報機器ということでは、ライブラリアンのみでなく、利用者がこれを駆使しなければ図書資料の有効な利用ができなくなっている。ここに、従来のような参考業務が主として実際の利用者に具体的に対応していたのとは異なる、一般的、潜在的利用者に対する事前的利用教育がいっそう必要となったのである。情報リテラシー教育がそれであるが、この授業は図書館情報学を体系的に学び、日常的に電子情報機器を駆使し、実践しているライブラリアンにおいては、適切な担当者はあり得ない。

第二はライブラリアンの授業担当資格についてである。ライブラリアンは教官身分ではないので授業担当資格がない、担当資格のない者を担当者とすることはできない、ということであろう。したがってその専門性においていかに相応しくとも担当者たりえないということになる。このことに関連するが、かつて、私はアメリカの大学図書館のライブラリアンについて論及したことがある（『大学図書館図書資料論』1997年 第1・第3章）。アメリカの大学ではライブラリアンがファカルティ、あるいはアカデミックステータス、すなわち教員資格を保持しているところが多いということを知っていたが、たまたま訪れた5大学の内の2大学で確認できた。例えばジャージー・シティ州立大学には10人のライブラリアンがいるが、館長：準教授（図書館学）、目録ライブラリアン：助教授（図書館学）など、7人が教員資格をもっている。不可欠となった図書館利用教育はライブラリアンによって担われるが、そのための教員資格である。わが国大学においても、図書館利用教育の正規の科目として開設が迫られている。それはライブラリアンを担当者としてこそ有効であり、そのための対応が課題となるであろう。担当者としての身分は、わが国では講師（非常勤）という制度的対応がある。勤務時間内のそれも可能とする工夫はあつてしかるべきである。

このようなことから、第二部夜間課程に、勤務時間外で支障のないライブラリアンと教員の共同による情報リテラシー教育を実施すべく企画した。全学の教務関係の各レベルの委員会などで、人事をふくめて賛同を得たが、しかし、これは実現しなかった。まことに残念である。今回は実現できなかったが、これはぜひ実現したいことである。

（かんだつ・はるき 経済学部教授）



一般教育科目授業に協力して

坂 谷 陽 子

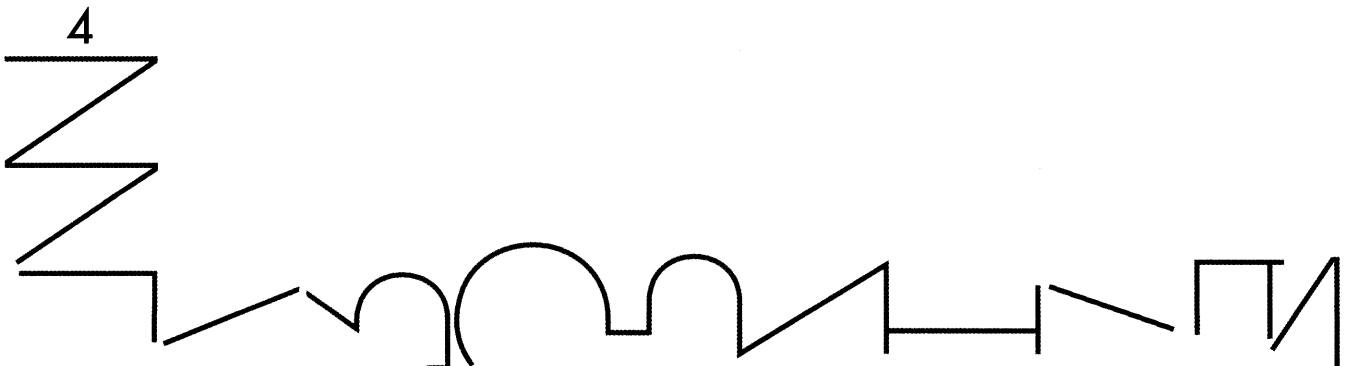
授業を担当することによって、あらためて資料について、情報について私自身も学ぶところが多かった。私は新聞情報検索を担当したが、それまで図書館でどのような形のものが（CD、縮刷版、原紙等）どこに、何年分置いてあるかということについては当然分かってはいたものの、新聞の資料的価値や、情報の性格等については深く考えたこともなかったのが正直なところだった。また、検索ツール、二次資料の知識も不足していた。（不足していたということ自体、今回のことで気づいたほどだ。）授業協力はそれらのことについても勉強するきっかけになった。また最近のインターネットでの情報提供については、新聞も急速に発達しつつある分野であり、その点から注目することができたのも良かったと思う。また、ひとつの授業を複数人で担当するので、他の人が勉強したことから教えられることも多かった。

受講希望学生が毎回多いということから、近年ますます重要になっていく情報分野への強い関心がうかがえるが、受講した学生の中には授業のために初めて図書館に来たという人も少なからずいる。ということは図書館は情報関係の施設としては余り認識されていないのかもしれない。古い本の墓場みたいに使われているのだろうか。むしろ古い資料にも魅力はあるのだが、そればかりでなく最新の電子媒体の情報も入手でき、まさに新旧とりそろえてある情報収集の基点としての図書館を発見してもらう機会にもなればと思う。そこまでいわずともこの授業によって、図書館の利用の仕方、情報の探し方を知って、「まあ図書館も思ったより役に立つ」ぐらいに考えてもらえればいいのだが。実際、授業の感想文の中に、〈新聞だけでもこんなにあるのは知らなかった〉〈明治頃の新聞まであるのはすごい。今度見たい〉〈CDで今度検索してみようと思う〉というようなことが書いてあったので、何か学生の側にもきっかけになってくれているのかもしれない。

図書館員にとって授業は本業ではない。しかし引き受けている以上は、受講学生に対しても責任があるのは確かなことだ。この授業協力も3回を数えた。しかし最初の頃より慣れたものの、新たに勉強したり準備したりすることを怠っていて、慣れたという点でのいわば技術的な面以外で初回からほとんど進歩していないところがあり、その点反省しなければと思っている。ただ本業が教育職ではないというのも事実である。図書館員が授業に携わることの問題点、現場への負担等について、今後も考慮していただく必要もあると思う。

しかし、貴重な経験であるのは確かで、この経験から学んだものを普段の業務にも生かしていけるように、また現場での経験を授業にもっと役立てていけるように、そうした中で図書館員が授業に協力することの積極的な意義ももっと把握していけたらと思っている。

（さかたに・ようこ 鹿田分館情報サービス係）



図書館オリエンテーション案内

参考調査係

図書館のオリエンテーションをご存知ですか。

現在、遡及入力により中央館閲覧室の和書については、ほとんどがオンライン検索可能となりました。また、「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」によって、論文単位の検索が行なえる二次情報データベースの種類も多くなり、自分で情報を探す手段が増えます。

各館とも下記のようなオリエンテーションを行っております。ぜひご利用ください。図書館を知り、活用してください。

授業・ゼミ単位の申込み・期間外の申込みの場合はその都度ご相談ください。（下記に含まれない新規サービスのための説明会は、その都度ホームページ・LIBRARY REFRESH等でご案内します。）

	名 称	担当	時 期	対 象	内 容
中央館	図書館オリエンテーション	参考調査係（内線7323）	4月（授業・ゼミ単位については応相談）	新入生（自由参加・授業、ゼミ単位）	・利用案内（パソコンを使つての案内） ・カード目録の使い方 ・コンピュータによる学内の図書、雑誌の検索
	二次情報データベース利用ガイダンス	電子情報係（内線7312）	通年	本学教職員・大学院生および論文作成目的の学生	二次情報データベース等の検索技法について解説
鹿田分館	図書館オリエンテーション	情報サービス係	4月	歯学部・保健学科の新入生、実習生	利用案内及び館内ツアー
	情報検索セミナー		春期（4月） 夏期（7月）	医学部・歯学部の大学院生	春期：MEDLINE、医学中央雑誌など医学関係の基本的なデータベースについて利用説明及び実習 夏期：春期で説明したもの以外のデータベースや電子ジャーナルについて利用説明及び実習
	データベース利用ガイダンス		5月	保健学科助産専攻科の学生	医学中央雑誌を中心としたデータベース利用説明及び実習
資生研分館	図書館オリエンテーション	情報サービス係	4月	院生及び教官	分館の歴史・蔵書構成等利用説明、館内ツアー、端末の使い方及び二次資料の検索方法

21世紀図書館資料整備第1次5か年計画について

清水 二郎

1. はじめに

附属図書館（以下、図書館）は、「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」に基づく新たな資料提供サービスを開始した。本計画は、平成10年度に附属図書館運営委員会（以下、運営委員会）のもとで検討・立案され、平成11年4月の評議会でその予算措置など計画の骨子が承認されたものである。

本計画に基づき、新たに選択された二次情報データベース（表1）及び津島地区自然科学系共用外国雑誌（表2）の提供をこの1月から開始した。図書資料については、4月以降に各部局の協力及び利用者による推薦等を得て選択する予定である。

これまでの経緯、考え方及び選択結果等について、その概要を紹介し、もって、これからの図書館資料整備にご理解・ご協力いただければ幸いです。

2. 図書館資料に対する現状認識

図1を見ると、岡山大学全体の資料費は、他の同規模大学に比べて、余り見劣りするものではないが、図書館に備え付けた資料費と研究室備え付け資料費を比べてみると、そのバランスにおいて、図書館資料費の少なさが見て取れる。このことは、大学全体としての資料の共用性が低いことを意味し、また、資料の重複購入が多くなり、非効率な経費支出ともなっている。この原因の一つは、従来図書館の建物が狭隘となり、図書資料を十分に備え付けられなかったことがある。建物問題は、平成9年の新館竣工によって解消された。

平成9年の全学自己点検評価報告書によると、学生からの指摘として、図書館の資料は全般的に古く、新しい図書・雑誌が購入できていない、特に大学院生向けの専門雑誌が整備できていない、図書館はその改善策を早急に作成することが求められていると記載されている。

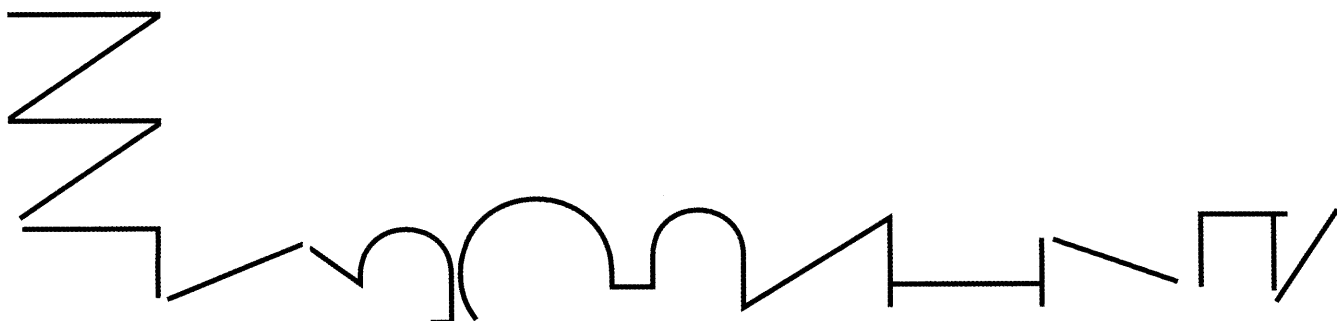
更に、津島地区における自然科学系共用外国雑誌は、これまで先生方の自主的努力によって共同購入されてきたが、外国雑誌の高騰などにより調整・維持することが困難になってきた。また、電子ジャーナルや二次情報データベースなど電子的資料の導入に関連して、図書館が共同利用する研究用学術資料の整備に貢献することが強く求められていた。

3. 検討の経緯等

- (1) 運営委員会のもとに図書館資料整備検討会を設置し、平成10年6月から12月の間に7回の会議を開催し、平成12年から開始する整備計画原案を作成した。

整備計画原案は、「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画大綱」、「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」及び「新計画における中央図書館資料選定要項」として構成した。

- (2) 平成11年1月から3月の間に運営委員会を3回開催し、部局等の意見・要望をもとに整備計画原案を修正し、図書館としての整備計画案が反対部局なく了承された。



- (3) 平成11年4月の評議会でのその予算措置など計画の骨子が承認された。
- (4) 平成11年9月、図書館運営委員会もとの検討会で、整備計画の資料選定要項に基づき、平成12年から提供する二次情報データベースの選択と津島地区自然科学系共用外国雑誌の選択が行われた。なお、外国雑誌の選択に当たっては、図書館ホームページ上で津島地区全教官を対象としたアンケート調査を行った。

4. 資料整備に当たっての基本的考え方

資料整備に当たって、以下の4点を基本的方針とした。

- (1) 総合大学としての岡山大学にふさわしい基本的な共同利用資料を整備する。
- (2) 学術情報が多様化・増大化する中で、情報共有による共同利用の促進によって経費の効率的運用を図り、適切な資料を確保する。また、学術情報を迅速に提供するため、電子情報化を促進する。
- (3) 研究情報 自然科学分野：主に学術雑誌（電子ジャーナルを含む）の充実
 人文社会科学分野：主に研究コレクション・図書の充実
- (4) 教育・学習情報 基礎教育、専門教育及び二次情報データベースを含む学術情報を調査するための資料の充実

5. 資料整備費の負担方法と館別配分方法

- (1) 資料整備費の負担方法
 学内からの資料整備費は、当積算校費に対して、一定率の負担となっており、約9,500万円と試算している（従来約3倍）。
- (2) 館別配分方法
 資料整備費の中央館、鹿田分館、資生研分館への配分方法は、それぞれのキャンパスの部局における負担率に応じて配分する。

6. 全学で共同利用する二次情報データベース等の整備

研究室からオンラインで利用できる二次情報等のデータベースが、表2のとおり選択された。図書館ホームページにリンクすることにより24時間利用できる。内容の詳細及び利用方法等については、図書館ホームページを見ていただきたい。

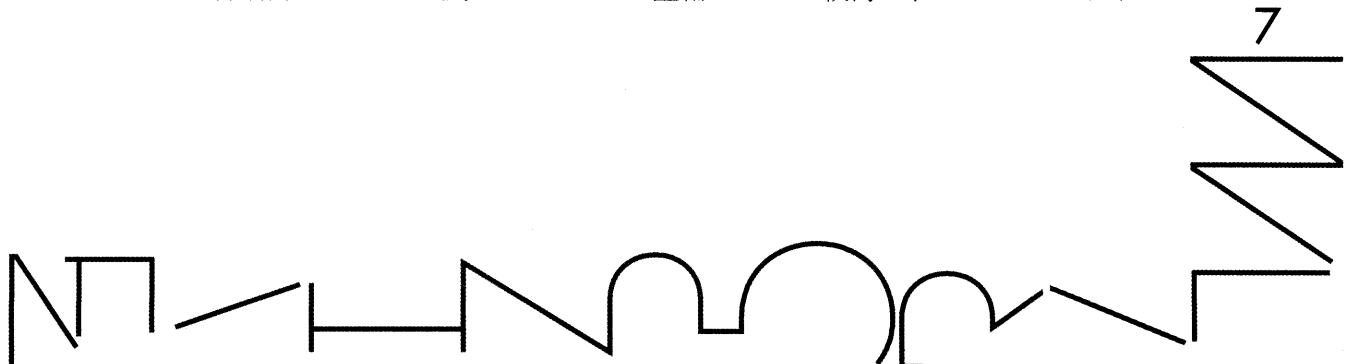
また、7.で紹介する電子ジャーナル(SD21)の中で利用できるもの及びインターネット上でフリーに利用できるものを調査し、有用なものを選択し、図書館ホームページにリンクしている。

なお、これらの選択は、運営委員会もとの設置した二次情報データベース選択ワーキンググループで行った。

7. 中央館（津島地区）における自然科学系共用外国雑誌の整備

自然科学系の研究者及び大学院学生が共同利用する自然科学系共用外国雑誌は、分野ごとに表3の数のものが選択された。これらの雑誌は、中央館の雑誌コーナーで閲覧できる。

また、共用外国雑誌とともに電子ジャーナルの整備について検討し、エルゼビアサイエ



ンス社が提供する電子ジャーナルサービスSD21（1999年から3年間の特別提供、同社が決めた基準金額以上の雑誌購入が参加条件）に参加する方向で協議している。そのほか、冊子購入とセットになっているものも利用できるようにした。

個々の雑誌タイトルなどは、図書館ホームページで案内しているので見ていただきたい。

なお、これらの選択は、運営委員会のもとに設置された津島地区自然科学系共用外国雑誌選択小委員会で行った。

8. 中央館における共用図書の整備

中央館において整備する図書資料の事項及び特徴について紹介する。なお、図書の選択は、平成12年度に執行計画を立てて実施する予定である。

(1) 研究用共用図書

人文社会科学系の研究者が全学的に共同利用する研究コレクション・図書を整備する。学部等の負担に応じた経費で、学部等教官が選択する。

(2) 教官選定学生用図書

教養教育や専門教育の向上に役立つ学生用図書を整備する。学部等の負担に応じた経費で、学部等教官が選択する。

(3) 大学院特別図書

大学院における高度専門教育及び研究に必要な資料を整備する。対象資料は、原則として、一揃いが一定額を超えるものとしている。選択は、小委員会で行う。

(4) 学生希望図書

学習及び教養の向上に役立つ図書を、学生の求め（学生希望図書申込書）に応じて整備する。

(5) 留学生用資料

日本語及び日本文化の理解、日本で生活習慣を修得するための資料及び留学生の母国紹介等に役立つ資料を整備する。

(6) 図書館継続図書、参考図書等

教育及び研究において共同利用され、継続的に出版される年鑑、統計書、全書、白書等の資料及び資料調査や、参考業務に不可欠な文献目録などの資料を整備する。

9. おわりに

以上で紹介したように本計画では、大学院生及び研究者が共同利用する学術資料の充実には相当の努力が払われた。学生用資料（費）についても、従来に比べて、3割ほどの強化を行ったが、まだまだ不十分であるとの指摘を各種委員会や先生方から承っている。指摘内容を把握するため、この1月、図書館に備え付けるべき学生用図書に関する調査を行った。これから整理するところであるが、調査結果は、本計画及び別途の資料費要求のための参考資料とする予定である。

最後に、本計画の推進及びアンケート調査等に当たって、全学を上げてご協力いただいたことに深く感謝を申し上げます。

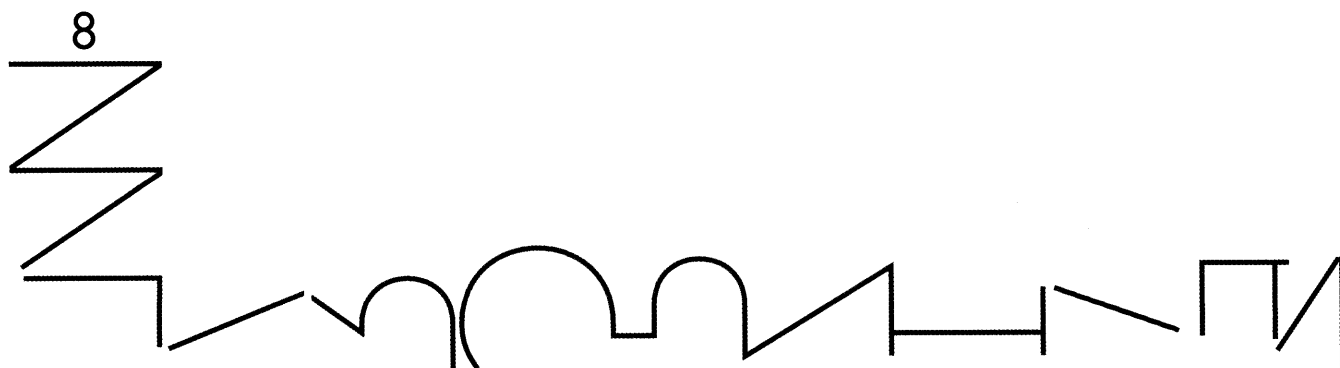
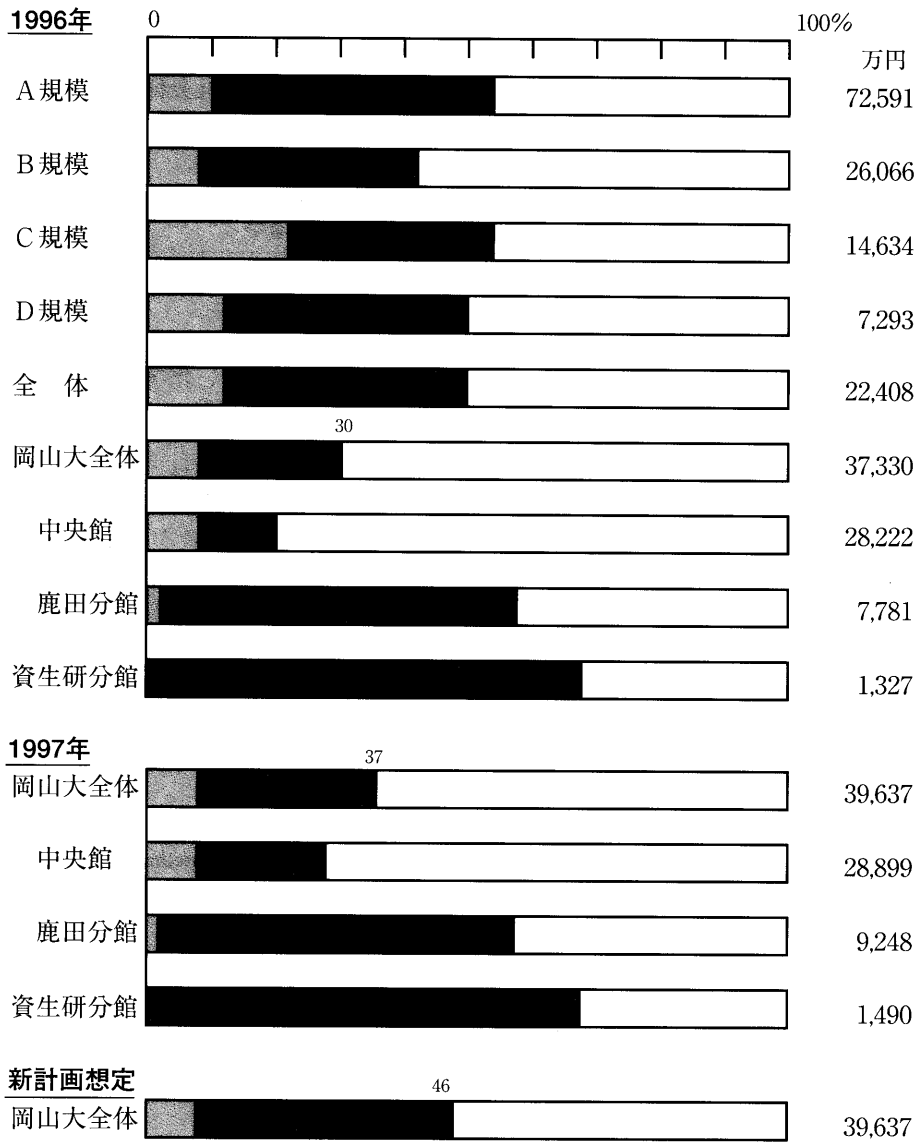


図1 国立大学図書館資料費の出所及び備付場所（1校あたり）



注 1) 文部省実態調査における国立大学図書館資料費の出所別内訳（1校あたり）より作成。A：8学部以上、B：5～7学部、C：2～4学部、D：1学部




- 2)  文部省からの配当、図書館備付
 その他経費からの配当（教官当校費、学生当校費等）、図書館備付
 その他経費からの配当（教官当校費、学生当校費等）、研究室備付

表1 二次情報データベース等選択一覧

データベース名	分野	開始
(人文・社会科学系)		
1 Journal of Citation Reports: Social Science Citation Edition	人文・社会科学 言語学、文学 心理学 経済学 法学	11月
2 MLA International Bibliography		
3 PsycLIT		
* 4 有価証券報告書総覧		
5 リーガルベース		
(自然科学系)		
6 Biological Abstracts	生物学 化学	
7 Chemical Abstracts		
8 Current Contents: Physics, Chemical & Earth Sciences	物理学、化学、地学 自然科学	7月
* 9 Journal of Citation Reports: Science Citation Edition		1月
* 10 MathSciNet	数学	1月
11 MEDLINE	医学、歯学、薬学等	
* 12 科学技術文献速報：機械工学編	機械工学	6月
* 13 科学技術文献速報：電気工学編	電気工学	6月
* 14 医学中央雑誌	医学	1月
* 15 民力	統計情報	4月
* 16 SwetsScan (目次速報データベース)	全分野	1月
17 朝日新聞記事データベース	新聞	
18 雑誌記事索引	全分野	

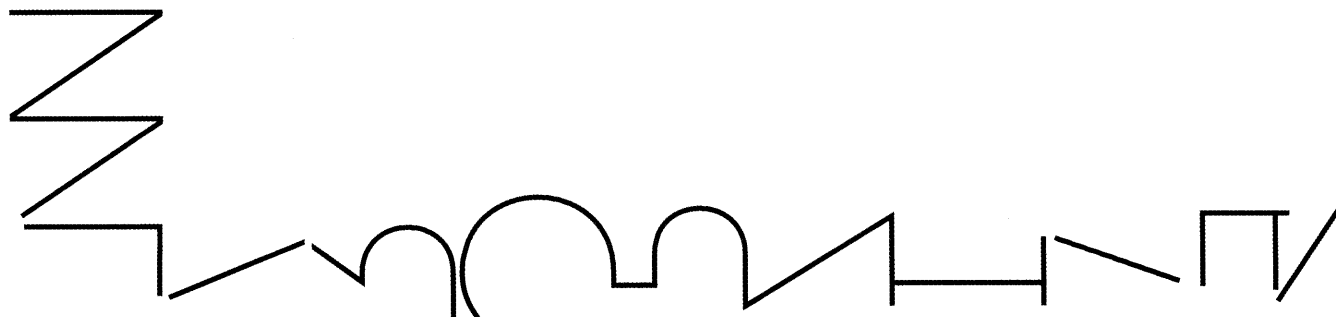
(注) 先頭に*の付いているものは、新規に提供するものである。
 なお、平成11年度提供しているERIC (教育学) はフリーのものを利用することとした。Current Contents: Agriculture Biology & Environmental Sciences, Life Sciences 及び Encyclopedia of Associations は、購入を中止することとした。

表2 津島地区自然科学系共用外国雑誌の選択数

	分野	タイトル数		分野	タイトル数
1	数学	7	9	システム工学	5
2	物理学	11	10	土木建築学	5
3	地学	10	11	農学	18
4	化学	16	12	医学	7
5	生物学	17	13	保健学	4
6	機械工学	33	14	薬学	3
7	電気電子工学	18	15	全分野	8
8	情報学	9		合計	171

(注) 上記以外に、自然科学分野の先生方が共同で購入し、中央館の雑誌コーナーに配架している外国雑誌が、平成12年度で約60誌ある。

(しみず・じろう 附属図書館情報管理課長)



岡山大学創立50周年記念「後楽園と岡山藩」について 池田家文庫等貴重資料展

河野 建二

はじめに

平成11年10月23日(土)から11月1日(月)までの10日間、新館 5 階特殊資料展示室において、「後楽園と岡山藩」をテーマとした展示会を開催した。この展示会は恒例のもので、今年、岡山大学が新制大学として発足して50年になるのを記念して、展示会の名称の前に冠として「岡山大学創立50周年記念」を付け加えた。

今回このテーマを選んだのは、来年が後楽園築庭300年にあたり、当館は後楽園に関する資料もたくさん所蔵しているからである。

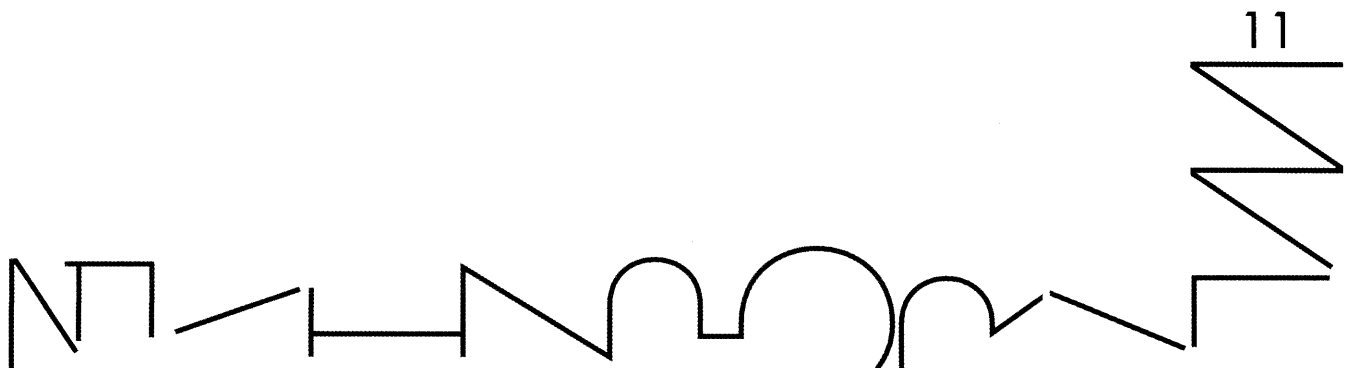
入場者数722名、その方々から多くの御意見等も寄せられた。ここにそれらも含め、まとめて御報告する。

展示品一覧

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 1. 御後園絵図
文久3年(1863) | 14. 御後園御目見の節絵図
明和5年(1768) |
| 2. 後楽園図
元禄2年(1689) | 15. 御後園射場図 |
| 3. 御後園地下ヶ図 | 16. 御茶屋御囲図 明和5年(1768) |
| 4. 御後園御茶屋絵図
元禄3年(1690) | 17. 慈眼堂山内御絵図 |
| 5. 津田重二郎奉公書 | 18. 撮要録 卷14 |
| 6. 池田家履歴 16 | 19. 於御後園勤進的被仰付候一件
寛延3年(1750) |
| 7. 御後園始り御絵図 | 20. 郡境杭木紙形 |
| 8. 奉行役宅周辺図
享保9年(1724) | 21. 後楽園古全図 |
| 9. 丹羽久左衛門奉公書 | 22. 御庭掛底樋図面
明治8年(1875) |
| 10. 御後園諸事留帳 | 23. 御後園地所引送書
明治17年(1884) |
| 11. 岡山城下図
宝永5年(1708) | 24. 御後園絵図 明和8年(1771) |
| 12. 御後園下図
寛保3年(1743) | 25. パネルA 御後園地割り絵図
正徳2年(1712)頃 |
| 13. 御後園武芸所・大楽屋図 | 26. パネルB 備前国岡山後楽園真景図
明治16年(1883) |

講演会

展示会の初日、10月23日(土)午後2時から4時までの2時間、「日本庭園と後楽園」と題する講演会が新館5階大会議室で開かれた。講師は千葉喬三教授(岡山大学農学部)。入場者数30名、後楽園に関する専門的な質問も出るなど質疑応答も行われた。



来場者統計

①年 齢

24歳以下 41%、25～34歳 10%、35～44歳 7%、
45～54歳 14%、55～64歳 16%、65歳以上 12%

②性 別

男性 49%、女性 51%

③所 属

学内学生 27%、学内教職員 69%
学外学生 15%、学外教員 4%、学外その他 44%

④住 所

市内 77%、市外（県内） 16%、その他 7%

⑤情 報 源

新聞 27%、ポスター 22%、その他 51%

⑥来 場 理 由

内容に興味 56%、時間に余裕 13%、近いから 13%、
図書館に興味 4%、その他 14%
その他内訳（授業で、調査で、ボランティアの勉強のため、等）

⑦展 示 点 数

多い 3%、適当 67%、少ない 30%

⑧解 説 内 容

難しい 15%、普通 76%、易しい 9%

⑨その他の意見等

- ・今後も同様の企画をお願いしたい。 19件
- ・素晴らしい絵図がたくさんあることを知り、大変興味深い展示でした。 17件
- ・説明があり、よく分かった。 13件
- ・後楽園の歴史が勉強できた。 12件
- ・字が小さいので、読みにくかった。 11件
- ・現在のもも展示した方がよく比較ができる。 6件
- ・照明がもう少し明るくならないか。 6件
- ・絵がとてもきれいでした。 4件

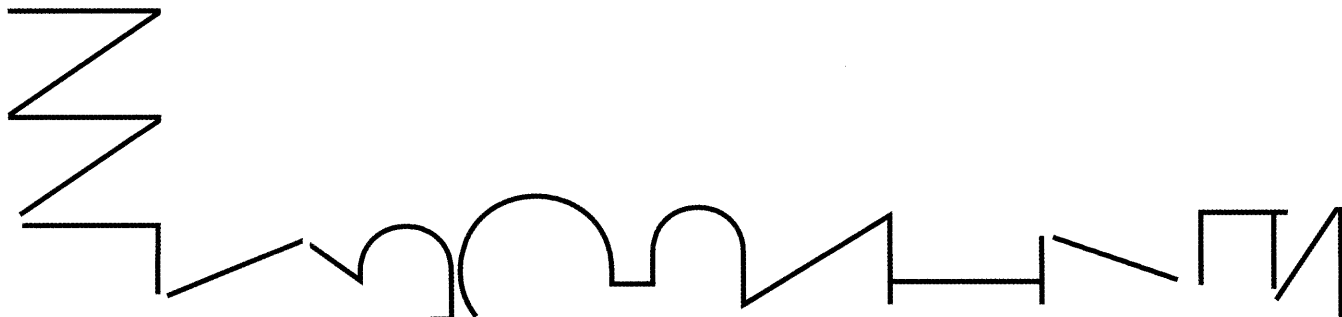
以下省略

おわりに

入場者数は、大学祭と同時開催だった昨年に比べ、200人余り減った。しかし、地元に着したテーマだけに、内容に詳しい人の来場が目立った。「この絵図は大変参考になります。」という研究者もいた。また、後楽園のボランティアガイドをしている人がグループで来ていた。

「今後も同様の企画を！」がアンケートのトップである。ありがたいことです。

(このの・けんじ 附属図書館情報サービス課長)



マスカット

書庫の配置場所を変更

現在、書庫の整備を進めています。書庫3層では分類番号300～399の資料の並べ方を変更しました。また、分類番号100～199の資料を書庫3層から書庫2層へ移動させています。

現在、作業の途中の段階で、今後も引き続き書庫内の整備を行っていく予定です。利用者の方にはご迷惑をおかけしますが、ご協力よろしくお願いいたします。

平成11年度遡及入力事業

第2年次にあたる遡及入力事業を平成11年10月から開始しました。

今年は書庫内の人文・社会科学の図書及び新館1階の参考図書を重点的に入力する予定です。作業中は利用者の方々にはご迷惑をおかけします。

国立大学図書館協議会シンポジウム〔西地区〕を開催

第12回国立大学図書館協議会シンポジウム〔西地区〕の当番館として、11月17日(水)～18日(木)、岡山大学自然科学研究科棟2階の大講義室で開催した。メインテーマは「大学図書館における事務機構改革-大学図書館の改善方策について-」、サブテーマは「図書館組織機構の改善」及び「図書館業務の改善・合理化」であった。34大学から50名の参加があった。

森茜（もり・あかね）図書館情報大学事務局長の基調講演「大学改革と図書館」を皮切りに、横浜国立大学附属図書館青木利根男情報サービス課長の「大学図書館の組織・機構アンケート」調査結果の分析説明を受けた。

また、東京大学附属図書館笹川郁夫総務課長の「東京大学情報基盤センターについて」をはじめとして、サブテーマ毎に、高知大学、神戸大学、九州大学、佐賀大学、京都大学、島根医科大学、名古屋大学、熊本大学、岡山大学からの事例報告があった。

岡山大学からの事例報告は、「オンラインによる図書館購入依頼サービス」と題して、大元利彦目録情報係長が行った。

津島地区自然科学系共用外国雑誌の購入決定

平成12年度から開始される「21世紀図書館資料整備第1次5か年計画」により、中央館本館1階に配置される洋雑誌171誌（一部、日本発行の洋雑誌を含む）が決まりました。昨年7月より、附属図書館運営委員会の下につくられた「津島地区自然科学系共用外国雑誌選択小委員会」が3回開催され、購入誌が決定されたものです。

従来の共同購入雑誌56誌とあわせて227誌が排架されています。従来通り貸出はできません。購入リストは図書館ホームページ（URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp>）をご覧ください。

二次情報データベース利用方法の変更

図書館で運用している二次情報データベース利用要項が、平成11年9月1日付で改正されました。今回の改正により、教職員から大学院生、また指導教官の許可を受けた学部学生まで幅広く利用していただけるようになりました。参考文献の検索にお役立て下さい。

電子図書館研究開発室の設置

岡山大学電子図書館研究開発室規程（平成11年7月29日 岡山大学規程第49号）に基づき、電子図書館研究開発室が設置されました。室員は、館長を室長とし、総勢7名の教官で構成されています。電子図書館研究開発室では、図書館における電子図書館的機能の強化・充実に関する研究及び開発を行うとともに、高度な図書館サービスの実現に寄与すべく活動を行っています。

教官からの著書寄贈リスト（平成11年9月～11月）

次の方々から著書を寄贈いただきました。ありがとうございました。

平成11年1月14日開催の附属図書館運営委員会において、今後図書館は本学教官（名誉教授を含む）の図書及び報告書等、著作物を寄贈により積極的に収集して学生等の利用に広く供することになりました。寄贈いただきました著作物は、OPACで検索できるほか、図書館報、ホームページに掲載して紹介します。ご理解とご協力をお願いします。

井口文男 [法]

イタリア憲法史——有信堂高文社，1998 (323.37/I 中央館)

石島弘（分担執筆）[法]

現代税法講義 3訂版（NJ叢書）——法律文化社，1999 (345.12/G 中央館)

井上一（編）[医]

変形性関節症の診かたと治療——医学書院，1994 (494.77/H 中央館)

岡本不二明 [文]

中国近世文言小説論考（岡山大学文学部研究叢書12） (923/O 中央館)
——岡山大学文学部，1995

小川紀雄 [医]

脳の老化と病気：正常な老化からアルツハイマー病まで (491.3/O 中央館)
（ブルーバックスB-1244）——講談社，1999

加藤内蔵進（分担執筆）[教]

気象環境と東海地方：地球温暖化・酸性霧と雨・オゾン層破壊 (F451.8/K 中央館)
（日本気象学会中部支部公開気象講座第3回）——[日本気象学会中部支部]，1996

加藤内蔵進（分担執筆）[教]

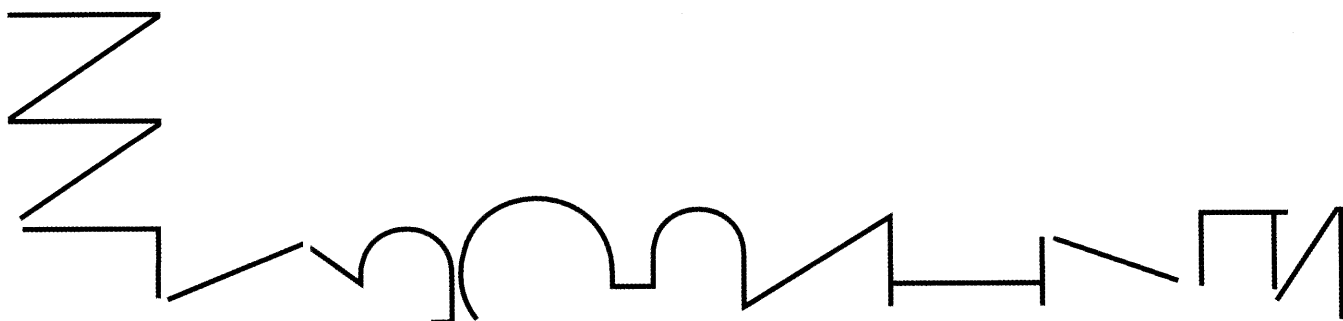
日本に影響を及ぼす熱帯の気象：台風・エルニーニョ現象・ (F451.5/N 中央館)
モンスーン：日本気象学会関西支部第20回夏期テキスト
——日本気象学会関西支部，1998

佐藤智水 [文]

北魏仏教史論考（岡山大学文学部研究叢書15） (222.04/S 中央館)
——岡山大学文学部，1998

清野佳紀 [医]

骨を鍛えるために——金原出版，1998 (493.936/S 中央館)



- 関洲二 [医]
手術手技の基本とその勘どころ 改訂第3版 (494.2/S 中央館)
— 金原出版, 1995
- 高旗正人 [教]
教育実践の測定研究: 授業作り・学級作りの評価 (371.7/T 中央館)
— 東洋館出版社, 1999
- 新納泉 [文]
鉄器時代のブリテン (岡山大学文学部研究叢書17) (F233/N 中央館)
— 岡山大学文学部, 1999
- 平松惇 (編) [名誉教授]
BASICプログラミングと教育統計 — 共立出版, 1998 (007.6/B 中央館)
- 平松惇 [名誉教授]
平松惇教授退官記念論文集 — 平松惇教授退官記念会, 1997 (420.4/H 中央館)
- 平松惇 (共著) [名誉教授]
Macintosh Quick Basic — 共立出版, 1997 (007.6/M 中央館)
- 平松惇 (共著) [名誉教授]
例題で学ぶLATEX — 培風館, 1995 (749.4/R 中央館)
- 平松惇 (翻訳) [名誉教授]
量子力学入門 I・II (MIT 物理) — 培風館, 1993-1994 (429.1/F 中央館)
- 平松惇 (監訳) [名誉教授]
特殊相対性理論 (MIT 物理) — 培風館, 1991 (421.2/F 中央館)
- 平松惇 (監訳) [名誉教授]
振動・波動 (MIT 物理) — 培風館, 1986 (424/F 中央館)
- 増田游 (編) [名誉教授]
研修医のための耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 — 南山堂, 1998 (496.5/K 中央館)
- 三谷恵一 [文]
子どもの心理: 五話 — 岡山大学文学部, 1997 (M371/M 中央館)
- 三谷恵一 [文]
子どもの心理: 五話 改訂版 — 岡山大学文学部, 1998 (M371/M 中央館)
- 光岡正博 [名誉教授]
団体交渉・職場交渉 (職場の判例労働法2) (366.63/M 中央館)
— 労働教育センター, 1978
- 森忠次 [名誉教授]
森忠次先生退官記念集録: 測量に関する話題 (512/M 中央館)
— 森忠次先生退官記念事業会, 1994
- 山下敬彦 [理]
情報処理概論 第2版 — 共立出版, 1998 (007.6/Y 中央館)
- 湯本泰弘 (研究代表者) [Iセ]
低レベル放射性試料の焼却実験 — 湯本泰弘, 1998 (F539.6/T 中央館)
(敬称略 五十音順)



会議

◆学外

- 11.9.27～9.28 平成11年度中国四国地区国立学校等安全管理協議会(於えひめ共済会館)
・毒物劇物等の有害物質の取扱いについて、他
- 10.7～10.8 平成11年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会実務者会議(於ホテル播磨屋)
・NACSIS-CATへの登録基準について、他
- 10.20～10.22 第40回中国四国地区大学図書館研究集会(於ホテルモナーク鳥取及び鳥取大学附属図書館)
・情報環境の変容とその対応

- 11.17～11.18 第12回国立大学図書館協議会シンポジウム(於岡山大学大学院自然科学研究科大講義室)
・大学図書館における事務機構改革—大学図書館の改善方策について—
- 12.3 平成11年度中国四国地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議(於広島大学附属図書館)
・平成11年度国立大学図書館協議会理事会等について、他
- 12.1.20 平成11年度国立大学附属図書館事務部長会議(於群馬大学医学部刀城会館)
・情報公開法への対応について、他

◆学内

- 11.8.31 平成11年度第2回津島地区自然科学系共用外国雑誌選定小委員会
- 9.9 平成11年度第2回二次情報データベース選択ワーキンググループ打合せ
- 9.24 平成11年度第3回二次情報データベース選択ワーキンググループ打合せ
- 10.1 平成11年度第3回津島地区自然科学系共用外国雑誌選定小委員会
- 10.24 平成11年度第1回電子図書館研究開発室会議

- 11.11 平成11年度第2回電子図書館研究開発室会議
- 11.26 平成11年度特別図書選定小委員会
- 11.26 平成11年度附属図書館全学共用図書(人文・社会科学系)選定小委員会
- 11.26 平成11年度附属図書館全学共用図書(自然科学系)選定小委員会
- 12.7 平成11年度第3回電子図書館研究開発室会議
- 12.21 平成11年度第3回図書館運営委員会
- 12.27 平成11年度第2回鹿田分館運営委員会

研修

- ・平成11年度NACSIS-IR地域講習会
参加者 三浦葉子 西村朋子 森谷めぐみ(11.10.29)
- ・平成11年度大学図書館職員講習会
参加者 山田智美(11.9～11.12)
- ・平成11年度中国四国地区国立学校等係長研修

- 参加者 脇本敏郎(11.9～11.12)
- ・学術雑誌総合目録と文編2000年版データ作成説明会
参加者 川上研三 丸尾進洋(11.11)
- ・第4回岡山大学厚生補導研修
参加者 森谷めぐみ(11.16～11.19)

編集委員会から

学生から「すごいっ」と声があがる。電動式の書架を動かしてみせると、反応が大きくて説明のしがいを感じる一場面である。ガイダンス科目で図書館のオリエンテーションを受ける1年生が増えた。「近代的、大いに利用したい」など第一印象はまずまずのようである。それで終わらず、その後も図書館に足を運び、図書館になじんでもらいたい。

今回のテーマは利用者教育とした。

岡山大学附属図書館報「楳」 No. 30 平成12年2月29日

発行人 石田常亞 編集 広報委員会 表紙デザイン・レイアウト 清水國夫

岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市津島中三丁目1-1 電話086-252-1111